

参考資料 1

平成19年度民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業 採択案件報道資料



開設以来、バスなどの乗り場や時刻を尋ねる人が訪れる案内所
＝鹿児島市のJR鹿児島中央駅前

エコ通勤社会実験 1週間

高まるか環境意識

10/21 前田

公共交通機関の利用を増やし、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)の排出削減を目指す「エコ通勤社会実験」(はじむとエコ通勤)が鹿児島市で十五日から始まった。十九日現在、事業所単位で四十三カ所、計六百八十五人が参加。十二月十七日まで二カ月間、通勤の足にバスや電車などを積極的に利用する試みに取り組む。運動がスタートして一週間、動き始めた取り組みを覗いた。

(地域報道部・石田雄二)

参加企業 イメージアップに期待

開設以来、バスなどの乗り場や時刻を尋ねる人が訪れる案内所＝鹿児島市のJR鹿児島中央駅前

同市松原町の鹿児島リーコも参加企業の一つ。リーコグループが目標とするCO₂排出量の前年度比6%削減のエコ活動の一環として実施。同市に

効果公表施策に生かす
NEDOの実証実験事業
鹿児島市で始まった「エコ通勤社会実験」は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の地球温暖化対策推進事業として、事業の効果を一環として実施。同市に

モデル事業一件を選んだ。鹿児島の場合、事業費千円程度の補助を受ける。モデル事業は、京都市の「レール&ショピン」カードとクレジットカードを使い、JRや私鉄で京都市内に行くか買い物時にポイント還元する

モデル事業は、京都市の「レール&ショピン」カードとクレジットカードを使い、JRや私鉄で京都市内に行くか買い物時にポイント還元する

モデル事業は、京都市の「レール&ショピン」カードとクレジットカードを使い、JRや私鉄で京都市内に行くか買い物時にポイント還元する

モデル事業は、京都市の「レール&ショピン」カードとクレジットカードを使い、JRや私鉄で京都市内に行くか買い物時にポイント還元する

エコ通勤社会実験は、住む本社社員で車通勤を現在90%から30%に減らす目標もあるという。交通の便が悪いケイ

交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

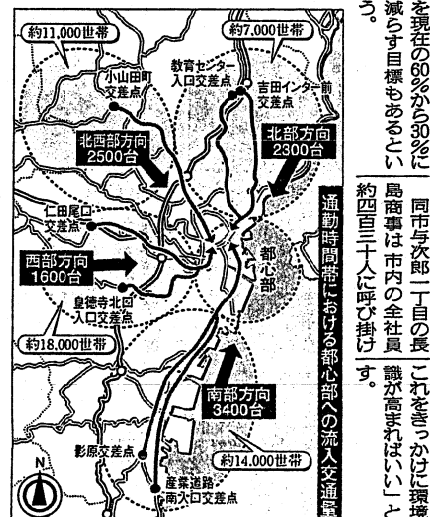
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ
交通の便が悪いケイ

一体的取り組みへ広報必要



一体的取り組みへ広報必要



一体的取り組みへ広報必要
一体的取り組みへ広報必要
一体的取り組みへ広報必要

一体的取り組みへ広報必要
一体的取り組みへ広報必要
一体的取り組みへ広報必要

具体的な取り組みの柱として、公共交通機関の利用率を向上させること、公共交通機関の利用率を向上させること、公共交通機関の利用率を向上させること



「エコ通勤」実験 控えフォーラム

鹿児島市

鹿児島市を中心に、マイカー通勤からバス、電車通勤に切り替える「エコ通勤社会実験」が十五日から始まるのを前に、「はじむっどー！ エコ通勤フォーラム」が十二日、鹿児島市の県市町村自治会館で開かれた。東京工

業大学の藤井聡教授が講演、「二人ひとりができる範囲で始めよう」と呼びかけた。写真。

藤井教授は過度な自動車利用が道路渋滞を引き起こし、公共交通や郊外型店舗増による中心市街地衰退の原因にもなっていると指摘。環境の視点からも、自動車を控えるほうが節電や節水より、二酸化炭素の削減効果が大きいことをデータで示し「車は便利だがどう付き合うかが大事。十回のうち一回控えてみてほしい」と提案した。

フォーラムには実験に参加する企業関係者など約百五十人が参加した。会社員永田亮さん(三三)は「一日十分間車を控えるだけで二酸化炭素が減るのかと驚いた。一人ひとりでも、ちょっとした取り組みがすごい力になるのでは」と話した。

テープカットで「まちかど交通案内所」オープンを
祝う関係者 — 8日、鹿児島市金生町の山形屋前



エコ通勤実験15日から

2カ所に交通案内所

2人ずつ常駐、期間中無休

十五日から約二カ月間、鹿児島市都市圏で始まる「エコ通勤の社会実験」(はじむっど「エコ通勤」)を控え、公共交通機関の案内サービスをする「まちかど交通案内所」が八日、同市の山形屋前とJR鹿児島中央駅前広場の二カ所に設置された。

社会実験は県、同市、鹿児島商工会議所、県バス協会が主体となり実施。マイカーからバス、電車利用へ交通手段をシフトし、省エネルギーや渋滞緩和などを目指す。

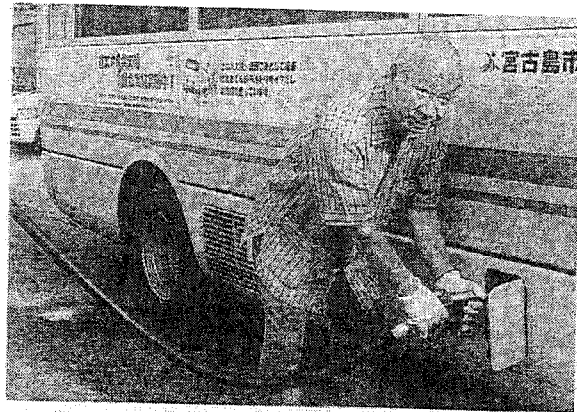
参加者は同日現在、市内の約四十社約六百人。山形屋前の案内所であった開所式には県、市の職員ら関係者が出席。県企画部の篠原俊博部長が「市内主要幹線道の

案内所は実験期間中の十二月十七日まで無休で開設(午前十一時～午後七時)。スタッフ二人ずつが常駐し、市内総合バス路線図の無料配布や公共交通機関の情報を提供するほか、「エコICカード」を販売する。

エコICカードは「We Love 天文館協議会」とも連携。八回乗車した履歴を案内所で確認後、山形屋や三越鹿児島店など四店で使えるソフトドリンク券を進呈。同カードの提示により十一店で各店独自のサービスも受けられる。

バイオのバスで 環境に優しい島

宮古島市でエコ燃料実験



出発式で、使用するマイクロバスにバイオディーゼル燃料を給油する伊志嶺亮市長＝1日、宮古島市役所平良庁舎前

【宮古島】宮古島市役所の分庁舎や空港、港、病院など、市内の主要公共施設間をバイオ燃料を使ったバスで巡回する「省エネルギー交通システム整備事業」が1日、始まった。自家用車の代わりにバスを使うことによるエネルギー削減効果を抑えることが目的の実験。バスは十二月二十五日まで平日に無償で運行し、市職員の通勤のほか市民や観光客にも利用を呼び掛けている。

実験事業は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から約二千万円の補助を受けて同市が県内で初めて実施。県によると、合併後の庁舎間の巡回バスは南城市で行われているが、バイオ燃料を活用するのは県内で初の試みという。使用するのはマイクロバス四台とワゴン車二台。マイクロバスは市内で回収した廃食油から作るバイオディーゼル燃料、ワゴン車にはE85燃料が使われる。市職員の通勤の利用希望者は現在約百二十人いるが、同市は市民も含めさらに多くの人に実験への参加を呼び掛ける。

同市役所平良庁舎前で一日午前に開かれた出発式で、伊志嶺亮市長は「環境に優しい島づくりの第一歩を踏み出した」と語り、

19.11.-1

沖縄タイムス



出発式でバイオディーゼル燃料を給油する伊志嶺市長＝1日午前、宮古島市役所平良庁舎前

バイオ燃料で環境に優しく宮古島市が通勤実験

【宮古島】宮古島市は一日、市内の食堂や家庭から出るてんぷら油などからつくり、環境に優しいバイオディーゼル燃料を使用したマイクロバスの社会実験を開始した。運賃無料で宮古島内の市運行する。

各庁舎や県立宮古病院、宮古空港、平良港に停留所を設置。各庁舎へ行く市民にも利用でき、土日や祝日は運休。市都市計画課では運行期間終了後、CO₂排出量の削減効果を試算。それを基に民間バス会社などへの普及を図る。交通安全祈願と出発式が一日午前、市役所平良庁舎前で開かれた。

19.11.-1